

令和 2 年度奈良県学校・地域パートナーシップ事業にかかる調査結果概要について

今回の調査について御協力ありがとうございました。

当課で、アンケート集計の後、調査・分析を行いましたので、結果の概要を報告します。

※地推員等…地域学校協働活動推進員等（地域コーディネーター含む）
※実施校…奈良県学校・地域パートナーシップ事業実施校（園）
※地域学校協働本部…ここでいう地域学校協働本部とは、地域や保護者と話し合いをする「会議」のことで、その名称は問わない。

【調査目的】

平成 25 年度から実施している標記事業について、各市町村・実施校での実施状況を総合的に把握し、これまでの取組の成果を検証し、今後の事業の更なる推進につなげる。

【調査結果の概要】

効果について

児童・生徒に関しては「子どもがあいさつを積極的に行うこと」、家庭・保護者に関しては「保護者の学校に対する理解の深化」、地域住民に関しては「地域住民の学校に対する理解の深化」、学校・教職員に関しては「子どもたちの通学時の交通安全、防犯体制の充実」に実施校、地推員等が共に効果を感じています。（p.2～p.3）

地域学校協働本部等について

新型コロナウイルス感染症対策のため、地域学校協働本部の開催日数が減少しました。また、地域学校協働本部において議論された内容として、「活動計画」「事業の評価・改善」についての割合は増加していますが、「子どもの教育課題」について議論し、学校と地域で共有した割合は 63%と減少しています。（p.4～p.5）

実施体制について

「学校（教職員）が地推員等の役割を担っている」割合が減少し、「学校（教職員）と地推員等とボランティアの三者が話し合い、計画・実行している」や「地推員等が学校の意見を加味して、ボランティアと相談し、計画・実行している」割合が増加しています。（p.5～p.6）

ボランティアについて

ボランティアと子どもたちの普段の関係に大きな変化はありませんでしたが、全ての実施校において、教職員がボランティアの方と「あいさつを交わす」以上の関係を築いています。（p.5）
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、「感謝の集い等の実施」「卒業式等の式典への参加」など、子どもたちがボランティアの方と直接対面する機会は減少しましたが、「子どもたちからの手紙を渡す」など、実施校がボランティアの方々のやりがいを引き出す取組を工夫して実施しています。（p.7～p.8）

地域学校協働活動推進員等について

多くの地推員等が、自身のボランティアとしての活動だけでなく、学校と地域・ボランティアとの連絡調整、要望・状況把握など、学校と地域・ボランティアをつなぐ活動に取り組んでいます。また、新型コロナウイルス感染症対策のため、「定期的にボランティアと打合せをしている」地推員等は減少していますが、「必要に応じて打合せをしている」割合が増加しています。（p.9～p.11）

※詳細については、次ページ以降を御覧いただき、事業推進の参考にしていただきますようお願いいたします。